

兵庫県立美術館・なぎさ公園

Hyogo Prefectural Museum of Art · Nagisa Park

所在地 / 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1、1-2

建築主 / 兵庫県

神戸市

設計者 / 安藤忠雄建築研究所

施工者 / 株式会社 大林組

清水建設株式会社

株式会社 鴻池組

神鋼興産建設株式会社

株式会社 明和工務店

株式会社 山田工務店

王子建設株式会社

今津建設株式会社

竣工日 / 2001年9月4日

Location / Cyuo-ku Kobe-city, Hyogo Prefecture

Owners / Hyogo Prefecture

Kobe-city

Architect / Tadao Ando Architect & Associates

Contractors / Obayashi Corporation

Shimizu Corporation

Konoike Construction Co.,Ltd.

Shinko Kosan Kensetsu Co.,Ltd.

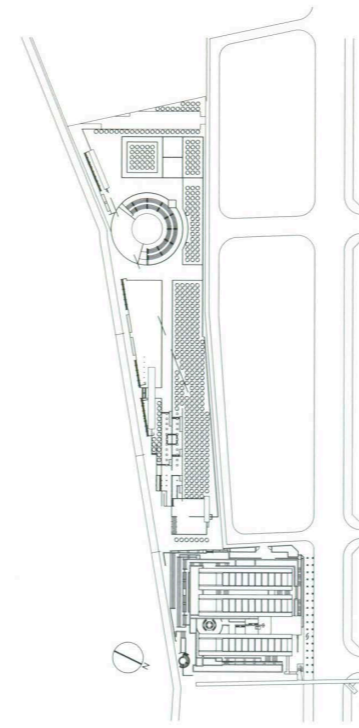
Maywa Koumuten,Ltd.

Yamada Construction Co.,Ltd.

Ouji Kensetsu Co.,Ltd

Imazu Construction Co.,Ltd.

Completion Date / September 4, 2001



配置 縮尺 1 / 8,000



庇下の基壇部 Space under the eaves on the second floor.

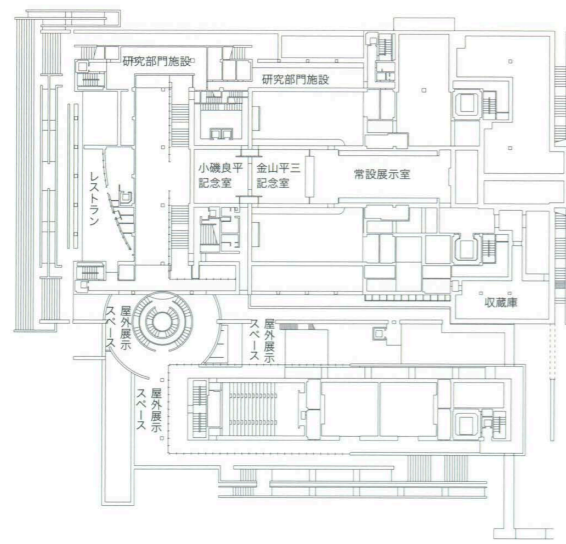
東側より見る夜景 Night view from the east.



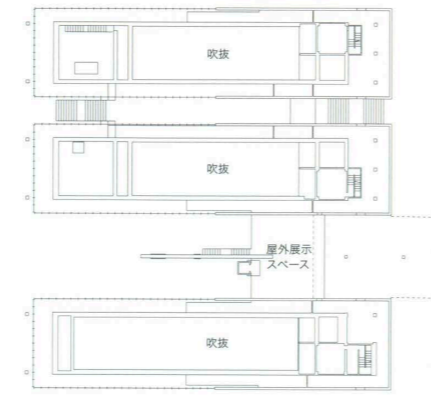
南からの俯瞰 Birdseye view from the south.



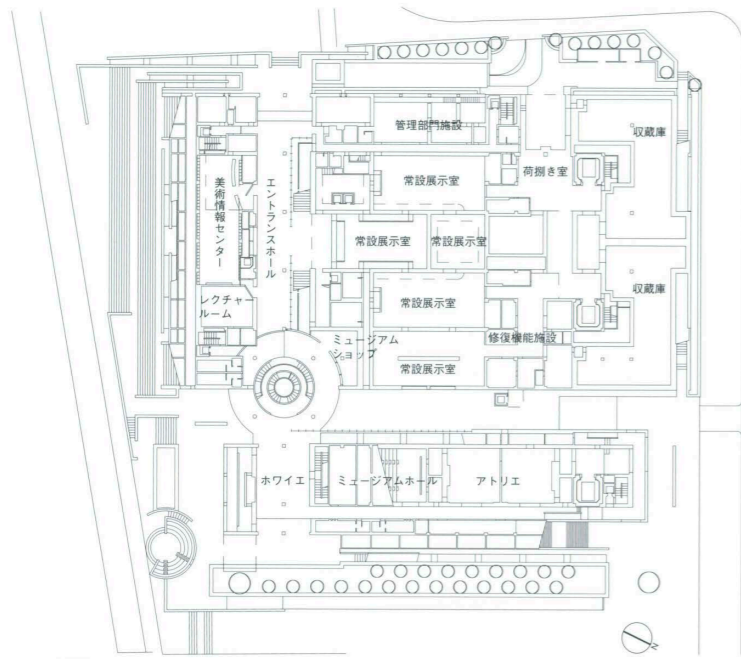
渡辺真理 Makoto Watanabe
 大字根弘司 Hiroshi Ōune
 可見才介 Saisuke Kani



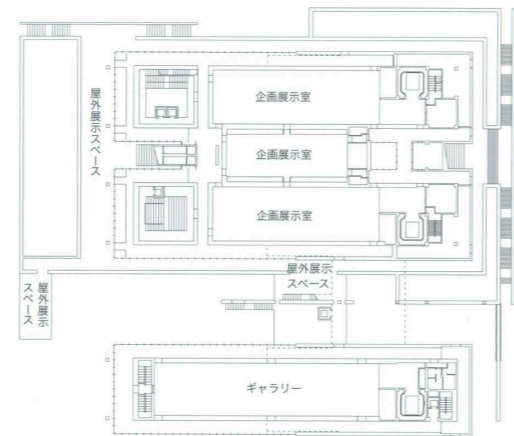
2階平面



4階平面



1階平面 縮尺1/1,800



3階平面

建築概要
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造(免震構造)
 施工期間 1993年3月~2001年9月
兵庫県立美術館
 敷地面積 19,000.00m²
 建築面積 12,807.71m²
 延床面積 27,461.41m²
 階数 地下1階 地上4階
なぎさ公園
 敷地面積 43,107.20m²
 建築面積 65.09m² (イベント広場関連)
 326.56m² (便所棟関連)
 延床面積 65.09m² (イベント広場関連)
 68.04m² (便所棟関連)
 階数 地上1階
仕上げ概要
外部仕上げ
 屋根/アスファルト防水シスターコンクリートの上軽量
 客土植栽 FRP露出防水 亜鉛メッキステンレス葺き
 外壁/自御影石張り(割肌乾式工法 一部湿式)
 化粧合板型枠コンクリート打放し仕上げフッ素樹脂塗装

ステンレスパネル t=4.0mm 溶融亜鉛メッキ磷酸処理
 開口部/アルミサッシュ フッ素樹脂焼付け塗装
 高断熱高遮熱ガラス(Low-E t=10mm+AS12mm+10mm)
 床/黒御影石 t=25mm ジェットバーナー
 仕上げ インターロッキングブロック300×600mm乾式
 張り 外構等/クスノキ アオキ シャリンバイ ハ
 マヒサカキ ハイバクシン インターロッキングブロック
 300×600mm乾式張り
内部仕上げ
[エントランスホール] 床/黒御影石 t=25mm 筋引き
 仕上げ 壁/化粧合板型枠コンクリート打放し仕上げ
 一部 プラストガラス張り 天井/LGS下地PB
 t=12.5mm 捨て張り 岩綿吸音板張り t=19mm リブ
 付き **[企画展示室]** 床/鋼製床組 h=200mm F1
 合板 t=12+12mm 捨て張り カバ特殊フローリング
 張り t=18mm ワックス掛け 壁/LGS下地 PB
 t=9.5mm 捨て張り F1合板 t=9+9mm 捨て張り
 不燃クロス貼り EP拭き取り 天井/LGS下地 PB
 t=12.5+12.5mm 不燃クロス貼り EP拭き取り
 光天井シェード **[収蔵庫]** 床/鋼製床組 h=200mm
 F1合板 t=12+12mm 下地 プナ特殊フローリング張

り 壁/日本スギ板横目地張り t=10mm 張り F1木
 質系調湿材 t=12mm 張り 天井/日本スギ板チドリ
 張り t=10mm F1合板 t=9mm 張り
設備概要
空調 方式/各系統空調機による単一ダクト方式・
 FCU方式・PAC 空調機50台・化学吸着フィルター・
 海塩粒子除外フィルター 熱源/地域冷暖房・空冷水
 蓄熱ユニット
衛生 給水/上水(直圧方式) 中水(雨水利用 加
 圧給水方式) 給湯/個別局所給湯方式(電気温水器)
 排水/直接放流(建物内分流式 屋外合流式)
 地下排水:ポンプ排水
電気 受電方式/受電電圧6,600V・高圧2回線(本
 線・予備線)受電 設備容量/変圧器容量4,200kVA
 契約電力/1,800kW 予備電源/ガスタービンエン
 ジン型6,600V 200kVA・地下オイルタンク2,000L
防災 消火/屋内消火栓 スプリンクラー 泡消火
 室素系ガス フード消火 排煙/機械排煙4系統
 避圧ダクト
その他 自動火災報知器 非常放送 ガス漏れ警報
 非常照明 誘導灯

1995年1月17日の阪神・淡路大震災から早くも10年が経つ。
 神戸市東部臨海部(東部)新都心は震災後に、震災により甚大な
 被害を受けた住宅などの都市機能の受け皿となるように、マスター
 プランの見直しを行った。そのなかの文化・交流機能の中心的な施
 設がこの兵庫県立美術館であり、なぎさ公園である。

安藤忠雄氏は東部副都心の住宅地域のマスタープランについて
 も提案を行っている(一部は安藤氏自身の手により完成した)し、そ
 のスケッチにはなぎさ公園の初期構想案が示されているから、この
 公園計画は震災後の早い時期から設計者が意図していたものでは
 あることがわかる。

安藤忠雄氏は97年3月に行なわれた県立美術館の設計者選定
 プロポーザルで選定され、この地域の中心的存在である文化施設
 の設計に携わるようになった。県立美術館は1999年3月に着工し、
 2001年9月に竣工している(2002年4月開館)。県立美術館はコン
 クリートの大庇が外観上の特徴となっているが、美術館としての展
 示空間はいうまでもなく、臨海部にあるための塩害対策として外部
 の鉄部には鉄でなくステンレス鋼を用い、そこにさらに溶融亜
 鉛メッキを行うというように設計者の細心の配慮が際立っている。
 震災後ということもあるが、建物のほとんどが免震化されているのは
 こういった施設ではおそらく先導的な試みであろう。

一方、なぎさ公園は設計こそ1996年2月に開始されているものの、
 工事竣工は2001年5月である。設計施工ともに非のつけどころの
 見出しがたい県立美術館に対して、正直なところ、なぎさ公園の
 完成度には疑問の余地がないわけではない。公園の設計自体も設
 計者が当初提案していたものとはだいぶ異なるものになっているよう
 に見える。ただそれでも、県と市が境界を越えて協力し合い、美術館
 と広場を一体的に計画・整備するという建築家の狙いはおよそ実現
 されたといえる。海岸線沿いに計画されたハーバー
 ウォークも神戸市の手によって公園の完成に先駆けて整備されてい
 るから、神戸市東部副都心中心部のウォーターフロントが安藤氏の
 提案に基づいて実現されたことにはまちがいないだろう。

前述のとおり、なぎさ公園には今後改善の余地があるが、震災後
 10周年にあたる本年、震災復興のシンボルのプロジェクトとしての
 全体計画や、その実現の経緯を総合的に判断して、「特別賞」として
 の表彰が適当であるという結論になった。

Ten years have already passed since the Great Hanshin-Awaji Earthquake
 of January 17, 1995. Kobe has revised its master plan; a new eastern
 subcenter on the waterfront is to take on urban functions such as housing
 that were impaired by the disaster. The Hyogo Prefectural Museum of Art
 is a key facility serving cultural and communication functions located in
 Nagisa Park.

Tadao Ando had made several proposals regarding the master plan for
 a residential district in the eastern subcenter; some of the proposals have
 been completed by Ando himself. His sketches from that period include
 an early concept for Nagisa Park, showing that the architect conceived the
 idea for a park soon after the disaster.

In March 1997 Ando was selected as the architect for the prefectural
 museum in a proposal-type competition. The museum was to be the
 cultural centerpiece of the district. Construction was begun in March
 1999 and completed in September 2001; the museum opened in April
 2002. Enormous cantilevered concrete roofs are a distinctive feature of
 the museum on the outside. Galvanized stainless steel was used instead
 of steel to combat damage from salt because of the museum's location
 on the waterfront. The museum was one of the first facilities of its kind
 to be almost entirely base isolated; the experience of the earthquake was
 obviously a factor in the installation of the system.

By contrast, Nagisa Park was completed only in May 2001, though
 its design commenced in February 1996. By contrast to the museum,
 which has been impeccably designed and constructed, Nagisa Park leaves
 something to be desired. The design of the park itself departs considerably
 from the architect's initial proposal. Nevertheless, the prefectural and
 municipal governments worked together, and the architect's idea that the
 museum and the plaza be planned and developed as a single entity can
 be said to have been largely realized. In addition, the city developed a
 waterside promenade before the park was completed. Thus the waterfront
 in the heart of the eastern subcenter in Kobe can be said to have been
 developed on the basis of Ando's proposal.

The question of the qualification of this project for a museum and a
 park for the BCS prize was discussed. It was concluded that, in light of the
 history behind the planning and realization of the project, the enormous
 damage wrought by the disaster and the subsequent reconstruction of the
 city, despite the fact that the Nagisa park needs some improvement, the
 project was worthy of the special prize this year on the tenth anniversary of
 the disaster.